



沖繩別院での法要



正午、平和の鐘がなりひびく(沖繩別院)

「慰霊の日」全戦没者追悼法要

別院・久米島布教所、各地自治会でも勤まる



浄土真宗本願寺派
発行 本願寺沖繩別院 (浦添本願寺)
発行人 中岡 順 忍
〒901-2132
沖縄県浦添市伊祖5-10-1
電話 (098) 877-3276
ファックス (098) 877-4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

6月23日(金)は「慰霊の日」。今年は戦後78年です。沖縄の各地で全戦没者追悼法要をお勤めしました。

沖繩別院では本堂にて午前9時から映画『ドキュメンタリー沖繩戦〜知られざる悲しみの記憶〜』を上映。午前11時から法要を修行しました。

別院、久米島布教所はともに正午の時報にあわせて、参拝者の方々と非戦平和の思いを胸に「平和の鐘」を鐘打し、黙祷しました。久米島布教所は「平和の鐘」の後に、法要をお勤めしました。

また、久米島町、浦添市仲西自治会・屋富自治会・安波茶自治



仲西自治会



久米島町



安波茶自治会



屋富自治会

会から追悼法要の依頼があり、それぞれの慰霊碑の前でお勤めさせていただきました。暑い日差しの下の法要でしたが、どの自治会にも多くの方が参拝されていました。会場では、「コロナが落ち着いてようやく再開できた。今後も追悼法要をしたいと思います」「追悼法要を継続して、次世代に戦争の悲惨さを伝えていかねければならない」などの声が聞かれました。

「慰霊の日」全戦没者追悼法要を通して、改めて命の尊さ、非戦平和の大切さが実感されています。この思いを次世代に伝えていかなければと、気持ちを新たにさせていただきます。

みどり丸遭難犠牲者追悼法要

事故から50年後の仏縁ではじまった法要
60年となるいまも
悲しみがやむことはない



8月17日(木)午前9時、久米島町銭田森林公園にある、みどり丸遭難犠牲者慰霊之碑前にて「みどり丸遭難犠牲者追悼法要」を修行しました。

1963年8月17日、お盆休みの帰省客など228人を乗せた那覇と久米島を結ぶ定期貨客船「みどり丸」が激しい横波をうけて沈没し、犠牲者86人、行方不明者26人という沖縄海難史上最悪の事故となりました。当時アメリカ空



故人を偲び、事故を悲しみ、手を合わせる人々

軍に所属し救助にあたられたりチャード・ジャンセンさんから10年前に「50年目の法要を勤めてもらいたい」と手紙をいただき、これをご縁に毎年8月17日に追悼法要をお勤めしています。

法要当日は例年同様早朝から大田安則総代に慰霊碑前の設営・清掃を手伝っていただきました。開式後、法要に続き、中岡順忍輪番の挨拶、参拝者に焼香いただき、故人の遺徳を偲びました。台風による品不足で供物や仏華を思うように準備はできませんでしたが、猛暑の中、ご遺族をはじめ、久米島町長、町役場関係者、FMくめじまの方など約20人が参拝されました。

今年事故から60年となりました。沖縄では33回忌を法要の区切りとされていますが、今後も事故の記憶を風化させず後世に伝えるため、追悼法要を勤めていきます。

ハイサイ!! 沖縄へようこそ



顕堂会の皆さん

6月22日(木)、顕道会の皆さんが沖繩別院に参拝し、別院の総代らと交流されました。

新型コロナウイルスの感染状況も少しずつ落ち着いてきました。沖繩別院ではこれからも、皆様のご参拝をお待ちしています。



阿弥陀堂前にて

本願寺の御影堂内。全国から集まった児童念仏奉仕団でうめつくされた



国宝の清掃奉仕



3年ぶりの 児童念仏奉仕団 ほとけの子の旅再開

7月23日(日)～25日(火)の期間、京都の本願寺で行われた「児童念仏奉仕団」に沖縄特区から6名が参加されました。「児童念仏奉仕団」は本願寺の清掃奉仕やレクリエーション等を通して親鸞聖人のおしなわに学び、本願寺に親しみ、次代をになう心豊かな仏の子どもの育成を目的とした行事で、沖縄からは過去にも3回参加し、好評をいただいていた。新型コロナウイルスによる中止が続き、今回は実に3年ぶりの開催でした。各寺院関係者から参加者を集い、中には初めて県外へ出るお子さんもおられました。初日は朝早く那覇空港を離陸、神戸空港に着き、京都へ電車で移動。初めて電車に乗る子も多く、楽しんでいました。お昼に本願寺に到着すると、皆大きさに驚いていました。

本願寺の清掃奉仕を行った後、境内でクイズラリー、夕方には京都水族館を観光しました。2日目は本願寺のお昼朝に参拝、「児童念仏奉仕団」終了後、大阪の遊園地「ひらかたパーク」を満喫、ジェットコースター等を楽しみました。3日目の最終日は神戸市内を観光し、たくさんのお土産を持って、お昼の便で沖縄に戻りました。天候にも恵まれ、充実した3日間でした。今後、「児童念仏奉仕団」に参加します。皆さんのご家庭からも京都の本願寺にご参拝ください。



レクリエーションも大人数でおこなわれた

盂蘭盆会 旧盆法要



沖繩別院の盂蘭盆会。多くのお参りをいただいた

今年のお盆は、8月11日(金)に沖繩別院・久米島布教所で盂蘭盆会、8月28日(月)～30日(水)に沖繩別院・天久礼拝所・久米島布教所で旧盆法要を修行しました。沖繩では多くの行事を旧暦で行う

ため、年ごとに日にちが変わります。今年の上記の期間でした。お盆は正式には盂蘭盆会といい、「盂蘭盆経」というお経が由来とされています。あるとき、お釈迦さまの弟子の目連尊者は自分が幼いころに亡くなった優しい母親を神通力で探しました。すると母親は餓鬼の世界におちて苦しんでいました。餓鬼とは、この世で食った報いとして、飢えや渇きの苦しみの世界におちた者のことです。目連尊者は驚き、お釈迦さまに相談しました。お釈迦さまは、「あなたの母親はあなたや家族を思うあまり周りが見えなくなり、他人に対してはよくない行いをしていました。そのため餓

鬼になって苦しんでいるのです。母親を救いたいなら、山や森で修行をしていた僧侶が町へ下りてくる時、その人たちにおいしい食事を用意しなさい」と勧めました。目連尊者が修行を終えた僧侶たちに食事を施すと、母親は餓鬼の世界から救われたそうです。

このお経とともに日本に盂蘭盆会の行事が伝わり、様々な風習が混ぜ合わさって、今の私たちが行っているお盆のかたちになりました。新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いていたせいも、ご参拝の方が増えた今年のお盆でした。



沖繩別院の旧盆法要。右の写真は納骨堂にて。ご家族の集まる姿が久々に見られた